

第四回 たこつば倶楽部バスツアー同行記
歴史探偵と行く『謎の七サバ神社めぐり』



『たこつば倶楽部バスツアー』同行記の第四回は、一月三十一日（金）に催行された「七サバ神社めぐり」。二〇一〇年五月号の特集でも紹介した左馬、鯖、佐波と書いて、いずれも「サバ」と読む謎の神社。境川、和泉川の流域。瀬谷区、泉区、大和市、藤沢市に合わせてたつた十二社しかない神社のうち、七つを回れば「病が治る」という霊験あらたかな神社を訪ねながら、「その謎の真相をつきとめてしまおう」というスリリングなバスツアー。午年だから左馬つていう安直さを笑うなかれ、行き先が謎というだけの、どこぞのツアーとはわけが違う、真正正銘のミスアリーツアーなのだ。



歴史探偵高丸が用意した特製フリップ（スケッチブック）に写真を貼っただけだが…を手に、神社の境内に到着するたびにヒントとなる歴史解説をする。順番に回っていくにしたがって謎の真相に近づくとこの趣向だ。果たして「サバ神社」に祀られているのは、左馬頭（さまのかみ）源義朝か？そのまんま魚の鯖なのか？それともサバの女王か？（最後のはウソです）

途中、もう一箇所「サバ」とは違う謎の神社に立ち寄った。慶応大学のキャンパス近くにある「宇都母知神社」。これでウツモチと読む。田園地帯の広敷地中にポツンとたたずむ神社だ。古墳の跡だ。いや、パワースポットだ。いやいや、UFOの発着地だ。などと、こちらもいろいろと怪しい噂が飛び交っている。果たして、その実態は…？？？

謎解きに頭を使えばお腹も空く。ということで、神社近くにある食事処「へついで庵 こんばち」に向かった。築九〇年の古民家を使ったお店は古色蒼然とした佇まい。表にある水琴窟の音色も心地よい。順番に音色を聞いて玄関に立つと、そこに張り紙が…。「歓迎！たこつば倶楽部！一行様」。「たこつば…つて」参加者も企画も「つぶぞろい」と解釈しよう。

「こんばち」は、山梨県でほうとうなどをこねる「こね鉢」のこと。もちろんメイン料理は「ほうとう」。これに「麦とろ」や「高座豚の丼」の付いたセットランチをいただく。食後のシメに、歴史探偵が地元、御所見（ごしよみ）中学校の生徒が作ったという宇都母知神社伝説の紙芝居を口演。

「ピッ！」 始まりの挨拶でいきなり笛を吹く。主人には驚かされたが、ぶっつけ本番なのに、八ヶ所囃んただけで無事に演じ終えた高丸探偵にもびびり。さすが「あおば紙芝居一座」の経歴は伊達じゃない。

一月とは思えないポカポカ陽気の中、新鮮野菜が格安で手に入る最大規模の「JAさがみわいわい市」で夕飯の材料を買い、新鮮な牛乳が味わえる「飯田牧場」で冷たいアイスマルクを堪能した。そして、向かった最後のサバ。一つプラスで計八つ。果たしてその謎の真相やいかに！ おっと、来年も同じツアーを企画するので答えは秘密。どうして

もという方は、歴史探偵に直接問合せを！

他の旅行会社では絶対に有り得ない、ひろたりあんならではの「たこつば…いや、たこつば倶楽部バスツアー。次は、またまた午年にちなんだ、ウマ〜いもん企画。（↑上）皆さま。」参加お馬ちしております。

（五）

